

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2023年度活動報告】

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学公開	参加人数
学修支援・教育開発センター	2023年4月1日	対面 和B206	新規採用教員	教育職員対象 新任者就任時研修会	教学部長 教学企画部長 研究部長	大学教育の充実・発展を目指して 龍谷大学の学修支援・授業支援・研究支援・自己点検について	×	41
	2023年7月5日	オンライン (zoom)	本学教職員（非常勤講師含）	生成系AIが教育現場にもたらす影響を考える	佐野 彰 先生（先端理工学部） 築地 達郎 先生（社会学部） 前田 哲宏 先生（文学部）	「Chat GPT」に代表される生成系AIは、メリットとデメリットを両方持っています。教育現場においても積極的な活用方法やレポート作成におけるリスクにどのように対応するか等が随所で議論されています。 今回のFD研修会では、生成系AIの仕組みや特徴の理解をはじめ、授業等における活用事例を紹介し、生成系AIが教育現場にもたらす影響について、参加者でディスカッションを行いました。	○	72
	2023年7月28日	対面・オンライン	本学教職員及び大学関係者、高校関係者	未来社会を担う「主体」をどう育てていくか ー初等中等教育の学びから、高大接続を考えるー	山下 真司 氏 (ベネッセ教育総合研究所 首席研究員・NITS独立行政法人 教職員支援機構フェロー)	高校現場では2022年度入学の生徒から新学習指導要領に則った教育が始まっています。全ての教科において「なぜそのような事象が起きたのか」という問いを立てて調べていくような探究型に学習形態が変化しています。また、学習の面に限らず、生徒が主体的に行動できるようになることが求められています。 高校教育で「主体的に」「多様な」「深い学び」「個別最適化された学び」が展開されていくなかで大学教育はどのように対応する必要がありますか。今回、高等学校学習指導要領（平成30年告示）総合的な探究の時間【解説】検討作成メンバーである山下真司氏を講師にお迎えし、教育をとりまく各省市の動きや高校における主体的・対話的で深い学びの取り組み例、初等中等教育の学びと高大接続についてご講演をいただきます。 2025年度に新学習指導要領で学んだ生徒が大学へ進学してきます。それらを見据えたカリキュラム、授業の改善を考える機会にしたいと思えます。	○	76
	2023年11月30日	対面・オンライン	本学教職員及び大学関係者、高校関係者	新学習指導要領での学び	榎本六秀 氏 (私立純心中学校・純心女子高校)	高校の教育現場では、2022年度入学から新学習指導要領に則った教育が始まっています。全ての教科において「なぜそのような事象が起きたのか」という問いを立てて調べていくという探究型に学習形態が変化しています。 また、学習活動に限らず、生徒が主体的に行動できるよう、さまざまな取り組みが展開されています。 今回、長崎県から純心女子高等学校教諭の榎本六秀氏を講師にお招きし、「なぜ探究学習を必要としてきたのか」、「探究学習を通して育てたい生徒像」について、ご自身の経験を交えながら実践事例をご紹介いただきます。 併せて、龍谷大学付属平安高校からも探究学習の取り組み事例をご報告いただく予定です。 2025年度に新学習指導要領のもとで学んだ生徒が大学へ進学してきます。高校での取り組みを参考に大学でどのように活かすのか、高大連携をはじめ、新たなカリキュラムや授業の改善を考える機会にしたいと思えます。	○	97
	2024年2月7日	オンライン	本学教職員	レポート課題で考えておくべきこと ー基本確認と生成AIとの兼ね合いー	島村健司氏 (本学ライティングサポートセンター・スーパーバイザー)	Chat GPTやGoogleのBardなど、生成AIの普及により、授業においてレポート作成の課題を学生に提示することへの不安や抵抗感が生じているのではないのでしょうか。 この研修では、このような事態を踏まえて、まずは、レポート作成の課題を提示するときに留意すべきことについて、アカデミックライティングの観点から解説します。 そのうえで、参加者の皆さんと一緒に、生成AIへの対応方法について検討を行います。	○	45
文学部	2023年7月12日	オンライン (zoom)	本学教職員（特任を含む）	文学部生のためのデータサイエンス教育について	崔 舜星 先生（心理学部専任講師）	文学部では、2020年度より構想400アクションプランにおけるリーディング学部事業として、積極的にデータサイエンス教育を推進してきた。 今後の課題としては、新たに文学部生の興味関心を喚起し、各専門の学びに結びつくような「文学部生のためのデータサイエンス」科目の設置を検討する必要がある。文学部の学生が自身の専門領域に近いところでもデータサイエンスの考えを採り入れることで、エビデンスが明確になり、かつ新たな視点を醸成できる契機になるような科目を将来的に設置することができれば有意義と考えられる。 本FD研究会では、講師として心理学部より心理学部に着任された崔舜星先生をお迎えして、データサイエンス教育とは何か、また現代社会において求められているスキルとは何かについてご教示いただくとともに、文学部の学びにデータサイエンス教育をどのように活かしていくことができるかについて考える機会とした。	○	87
	-	オンライン	本学教職員（特任を含む）	心理学部の教学展開について	-	心理学部から講師を招き、心理学部の新たな教学展開について紹介していただき、文学部の今後の教学展開について可能性を考える機会とした。	○	-
心理学部	2023年7月26日	対面及びオンライン	本学部教員	心理学部におけるBYODを活用した教育の現状と展開	崔 舜星（心理学部講師）	数理・データサイエンス・AI教育の高まりとコロナ禍でのオンライン授業を経て、ノートPC等の必須化を打ち出す大学・学部が増加している。本学心理学部においてもノートPC等を必須化とし、また2023年度FD計画の一つとして『初年次教育（オンライン教育（BYODの更なる活用））』を進めている。本報告会においては、報告者の事例について報告しつつ、本学心理学部におけるBYODを活用した教育の状況を整理した。また、本学部生及び教員に実施したBYODに係るアンケート調査結果を踏まえ、現状を分析・情報共有すると共に今後の展開について広く議論を行った。	×	24
	2024年2月	オンライン開催 (teams)	本学部教員	スタートラインの先に何を描く？ ー心理学部1年次生のキャリア観を探るー	野呂 靖（心理学部准教授） 滋野 正道（心理学部講師）	心理学部ではキャリア教育を正課教育の柱の一つに位置づけている。報告会では1セメ「キャリアと心理」の講義内容を紹介するとともに、アンケートなどから見てきた1年次生のキャリア意識について報告する。	○	-
経済学部	前期	対面	経済学部教員	演習科目について	上山 美香（教務主任）	-	-	-
	前期	対面	経済学部教員	PS、ゼミ連の現状と今後の活動	小峯 敦（経済学部長） 上山 美香（教務主任）	-	-	-
	後期	対面	経済学部教員	「統計学入門」の実施状況	上山 美香（教務主任）	-	-	-
	後期	対面	経済学部教員	-	-	-	-	-
	後期	対面	経済学部教員	学部オンライン授業の現状と今後の展開について	上山 美香（教務主任） ドールトン フランク (経済学部教授) 神谷 祐介（経済学部准教授）	-	-	-
	後期	対面	経済学部教員	2019年度4月入学学生の入試形態別成績調査結果 ー2018年度生との比較ー（仮）	石橋 郁雄 (経済学部准教授)	2019年度4月入学学生の入試形態別成績の分析結果報告。	-	-
	2023年6月28日 教授会内	対面及びオンライン	経済学部教員	経済学部の就職状況について	新井 潤（キャリア主任）	進路決定率、就職決定率等について、他学部比較等、分析結果が共有された。	×	47
	2023年7月5日 12:45～13:15	対面開催 経済学部教育・研究センター	経済学部教員	アジアの1人当たりアウトプット収数とその要因	松木 隆 (経済学部教授)	2023年4月新任教員を講師に迎えてのFD報告会。 専門分野に関する紹介を交えながら、教育・研究に関する情報交換を行う。	×	19
	2023年7月19日 12:45～13:15	対面開催 経済学部教育・研究センター	経済学部教員	政府債務の動学分析と財政の維持可能性	新居 理有 (経済学部准教授)	2023年4月新任教員を講師に迎えてのFD報告会。 専門分野に関する紹介を交えながら、教育・研究に関する情報交換を行う。	×	15
	2023年7月27日 12:40～13:20	対面開催 経済学部教育・研究センター	経済学部教員・ 学部生・大学院生	経済安全保障ーその起源と変質	原田 太津男 (経済学部教授)	2021年度国内研究に関する成果報告会が行われた。	×	9
11月～1月の間に 4回実施	対面開催 経済学部教育・研究センター	経済学部教員	研究力PRセミナー	科研費の研究代表者	科研費の研究代表者である本学教員が講師となり、研究課題、応募課題をわかり易く紹介する。	×	-	
経営学部	2023年9月13日 13:40～14:20	オンライン開催 (teams)	経営学部教員	選定オンライン授業科目実施報告会 (2023年度前期)	梅澤俊浩教授 坂本雅則教授 濱田崇嘉准教授、 藤木潤司教授	選定オンライン科目実施報告および意見交換会	×	18
	2023年9月13日 14:30～15:00	オンライン開催 (teams)	経営学部教員	2022年度経営学部進路実績報告	キャリアセンター、 経営学部キャリア主任	1 2023年3月卒の就職環境について 2 2022年度の進路・就職実績（結果） 3 過去10年間の経営学部就職実績 4 2024年3月卒の就職環境について 5 キャリア・就職支援	×	24

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加人数
	2023年10月4日 15:15~16:45	オンライン開催	本学教職員	(龍谷大学経営学会と共催)	鍛塚 賢太郎 教授	グローバル生産ネットワークと立地機会の窓	×	-
	2023年11月8日 15:30~	オンライン開催	本学教職員	2023年度プログラム科目実施報告について	経営学部プログラム科目担当者 (秋庭 太 准教授、 眞鍋 邦大 准教授、 坂本 雅則 教授、 于健 准教授)	【2023年度プログラム科目実施報告会】 経営学部では、2008年度以降、「現場で学ぶ経営学」をコンセプトとしたプログラム科目を開設し、理論だけでなく実習教育も重視した教育を展開しています。今回の報告会では、プログラム科目の実施状況およびその学習効果について各担当者が報告し、同科目の情報共有を図ることを目的とします。 【スケジュール(予定)】 15:30~ 「起業論B」実施報告 (報告者:秋庭 太 准教授) 15:40~ 「地域と企業」および「ものづくりの現場」実施報告 (報告者:眞鍋 邦大 准教授) 15:50~ 「現代中国のビジネス」実施報告 (報告者:坂本 雅則 教授、于健 准教授) 16:00~ 質疑応答	○	12
	2024年1月26日 15:00~17:00	対面開催場所:深草学舎 5-503情報実習室 オンライン開催方法:Zoom	本学教職員	合同型演習における合同報告会	経営学部 坂本雅則ゼミ3年生、 濱田崇嘉ゼミ3年生	社会人基礎力をゼミで養成することを旨とした経営学部の合同型演習で義務づけられている「合同報告会II」を実施する。坂本ゼミと濱田ゼミのゼミ生(3年生)が下級生のチームワークに日常的にコーチングを行った結果から、どのようなことをつかんだのかを成果報告する。	○	7
	2024年2月1日	オンライン開催 (teams)	経営学部教員	人権研修会	-	-	×	-
	2024年2月9日 14:00~15:00	オンライン開催 (teams)	経営学部教員	選定オンライン科目実施報告会 (2023年度後期)	井手健二教授、 梅澤俊浩教授、 濱田崇嘉准教授、 藤岡章子教授、 藤木潤司教授、 樋口聖非常勤講師(秋庭太准教授)	選定オンライン科目実施報告および意見交換会	×	-
	2024年3月上旬	オンライン開催	経営学部教員	次年度の演習・基礎演習のスケジュール等について	西岡教務主任	次年度の演習・基礎演習のスケジュール(案)の共有および意見交換	×	-
法学部	-	オンライン	法学部教員	GPS-Academicの結果報告について	株)ベネッセi-キャリア担当者	・GPS-Academicの結果報告について ・結果報告から見える法学部生の特徴について		-
	2023年4月2日 10:00~	深草学舎 2号館406教室	「基礎演習」担当教員	「基礎演習」担当者説明会	教務主任	・法学部専攻科目「基礎演習」の実施方法について	×	22
	2023年6月14日 15:30~	オンライン	法学部教員	法学部の進路実績について	キャリアセンター職員	・2021年度法学部の就職状況の結果について ・法学部の現状と取り巻く課題について	×	42
	2023年6月28日 15:15~	オンライン	法学部教員	講義におけるパワーポイントの役割	中野 寛之教授		×	43
	2023年9月13日 13:30~	深草学舎 和顔館B101教室	「法政入門演習」担当教員	「法政入門演習」担当者説明会	教務主任	・法学部専攻科目「法政入門演習」の実施方法について	×	22
	2023年9月13日 15:15~	オンライン	法学部教員	障がいのある学生への授業支援ツール活用事例の共有について(仮)	障がい学生支援室コーディネーター		×	42
	2023年10月25日 15:15~	オンライン	法学部教員	龍谷大学法学部を取り巻く入試環境について	入試部職員		×	-
	2023年12月13日 15:15~	オンライン	法学部教員	教育・研究活動を振り返って	赤池 一将教授		×	-
	2023年12月13日 15:15~	オンライン	法学部教員	教育・研究活動を振り返って	上垣 豊教授		×	-
	2024年1月10日 15:15~	オンライン	法学部教員	教育・研究活動を振り返って	金子 真也教授		×	-
	2024年1月10日 15:15~	オンライン	法学部教員	教育・研究活動を振り返って	川角 由和教授		×	-
	2024年1月24日 15:15~	オンライン	法学部教員	教育・研究活動を振り返って	神吉 正三教授		×	-
	2024年1月24日 15:15~	オンライン	法学部教員	教育・研究活動を振り返って	吉岡 祥充教授		×	-
政策学部	2023年7月26日 13:30~14:30	和顔館4階会議室3	政策学部教員	政策学部 カリキュラム編成について	教務主任	・政策学部の2023年度のカリキュラム及び今後のカリキュラム編成について	×	19
	2023年5月31日 13:30~15:00	和顔館4階会議室3	政策学部教員	政策学部 教科書制作について	只友 景士 教授	・教科書の企画コンセプトの共有 ・執筆方針の共有 ・今後のスケジュールの確認 ・執筆要領の確認	×	19
	2023年6月14日 13:30~15:00 15:15~15:30	和顔館4階会議室3	政策学部教員	政策学部 教科書制作について	只友 景士 教授	・政策学部教科書プロジェクト 基礎調査アンケート結果について ・今後の教科書制作のスケジュールについて		24
	2023年6月28日 14:15~15:00	和顔館4階会議室3	政策学部教員	教員活動自己点検について	教務主任	・教員活動の自己点検について	×	18
	2023年7月26日 14:30~15:00	和顔館4階会議室3	政策学部教員	海外PBL(フィンランドプログラム)報告会	プログラム担当教員	海外PBL(フィンランドプログラム)の報告について	×	19
	2023年9月13日 14:30~15:00	和顔館4階会議室3 (オンライン併用)	政策学部教員	海外PBL(台湾プログラム)報告会	プログラム担当教員	海外PBL(台湾プログラム)の報告について	×	15
	2023年10月4日 15:15~16:45	和顔館4階会議室3	政策学部教員	政策学部 教科書制作について	只友 景士 教授	政策学部の教科書制作について		-
	2023年10月11日 13:30~15:00	オンライン	政策学部教員	2022(2023入試)年度の分析および2023(2024入試)年度の動向について	入試部課長	2022(2023入試)年度の分析および2023(2024入試)年度の動向を報告いただく		-
	2023年12月13日 14:30~15:00	オンライン	政策学部教員	海外PBL(韓国プログラム)報告会	プログラム担当教員	海外PBL(韓国プログラム)の報告について		-
	2024年1月24日 13:30~15:00	オンライン	政策学部教員	地域連携型教育(CBL)プログラムのモデル化および質保証の実質化	教務主任	-		-
	2024年3月13日 14:30~15:00	和顔館4階会議室3	政策学部教員	2023年度 成績評価の適切性について	教務主任	自己点検・評価での改善項目について		-
国際学部	2023年9月13日 13:40~14:50	オンライン	国際学部専任教員	悩みを抱える学生への接し方について-教員として可能な範囲の具体的対応-	心理学部 心理学部長 吉川 悟 教授	近年、学生指導などの場面において、学力だけでなく様々な精神的・心理的悩みを抱える学生に接する機会が増えてきたように感じられる。学生によっては、悩みをかかえていることから問題行動に出たり、学生生活に支障を来したり(もしくは、その境界にいる)ようなケースも見受けられ指導に苦慮することがある。そのような学生に対し、教員として適切に対応するための基本ガイドラインなどを事例を交えながら学び、これからの学生指導に活かしていける学びの機会としたい。	○	31
	2023年9月20日 15:00~16:25	オンライン	国際学部専任教員	ハラスメントを黙認、黙過することの責任について-本学ハラスメント防止規定の下でのあるべき対応-	ハラスメント問題委員会委員長・ 法学部 越山 和広 教授	全学ハラスメント問題委員会は、ハラスメントに関する啓発活動や制度の整備などを通じて、ハラスメントの当事者とならないための活動を主として行ってきたところである。しかしながら、自身がハラスメントの当事者にならなかったとしても、ハラスメントが生じていることを第三者として知ったりするなど間接的に他者のハラスメントに関わってしまう事象が発生することがある。そのような場合、どのように対応すべきかを学ぶ機会を提供したい。	○	24
	2023年10月25日 14:30~15:30	オンライン	国際学部専任教員	国際学部 2022年度(2023年3月卒)進路実績報告	キャリアセンター	2022年度(2023年3月卒)生の進路実績報告	×	-
先端理工学部	2023年6月28日 14:45~15:30	オンライン	先端理工学部教員	高大接続について	入試部事務部長	高大連携活動について	×	82
	2023年7月12日 14:30~15:00	瀬田キャンパス1号館 619会議室	本学教職員	ASEAN地域で実施するグローバル教育プログラム	宮武 智弘 (先端理工学部応用化学課程教授)	龍谷IP事業として推進している、ASEAN地域で行う海外研修型グローバル教育について報告する。ベトナムに進出している日系企業に協力を仰ぎ、ベトナムの大学生と本学学生が共同で企業の課題解決に取り組みPBL学習の様子や、受講生の成長をPROGテストを通じて確認し、今後の学修につなげる取り組みについて紹介する。また、コロナ禍で海外渡航ができない期間に取り組んだオンライン型の海外研修の実施方法やその学習成果についても紹介する。	○	81
社会学部	2023年5月17日 15:15~15:45	オンライン	社会学部教職員	円滑に授業に入っていくための効果的な新入生オリエンテーションについて	小野 勝士(社会学部教務課員)	この3年間、新入生の学生間交流機会の工夫やオリエンテーション動画の作成等、オリエンテーション内容の充実を図ってきた。しかし、不十分な部分も多々みられ、オリエンテーション期間でのつまづきが単位僅少等、学修面の課題を生じさせる要因になっていないかと思っている。今年度のオリエンテーション内容を振り返り、課題となった点を踏まえた次年度の改善案を提示し、授業を始めとする学生生活にスムーズに入っていくためにはどのようなオリエンテーションが効果的かを考える機会としたい。	×	49
	-	オンライン	本学教職員(非常勤を含む)	読解力を高める授業の紹介	田村 公江(社会学部教授)	「字を読むことはできるが文章を読むことは苦手」という学生のために「文献講読」という授業をしています。様々なジャンルの文章を教材として、ジャンルに応じた読み方をグループ作業を通して身に付けてもらっています。	○	-

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加人数
	2023年10月4日 15:15~16:15	ハイブリッド	本学教職員（非常勤 を含む）	仏教社会福祉における公共性	井川裕覚・上智大学大学院実践宗教学 研究科特別研究員・高野山真言宗叡楽 寺（奈良市）住職	『近代日本の仏教と福祉 公共性と社会倫理の視点から』法蔵館、 2023年の執筆者に社会学部移転にも関連する公共性についてご講演 をしていただく。	○	-
	-	オンライン	本学教職員（非常勤 を含む）	今さら聞けないMicrosoft365とGoogle Workspace 基礎の基礎	-	龍谷大学では教育用情報基盤としてMicrosoft365、Google Workspace、manaba、Maharaなど多様なツールを導入しています。 中でもMicrosoft365とGoogle Workspaceは実に多くの機能を持つ統 合プラットフォームであり、卒論指導や実習指導などの高度化と効 率化に役立てることもできそうです。MicrosoftおよびGoogleの専 門家をそれぞれお招きし、上下2回で上手な使い方を学びます。	○	-
	2023年6月14日 15:15~15:45	オンライン開催 (Teams)	本学教職員（非常勤 を含む）	2023年度社会学部新規着任教員の研究内容につ いて	春名 苗（現代福祉学科教授） 中谷 昇（社会学科教授） 山口 浩次（現代福祉学科教授）	「龍谷大学における研究に関するFD」の定義において、具体例とし て「教員集団・教員個人が日常的に行う研究活動の活性化・研究 力の向上のための活動」があげられています。社会学部では、教 授、准教授または講師として新規着任した先生方から自身が取り組 む研究内容の報告をいただくことで、学部内の教員が個々でおこな う研究活動はもちろん、教員が共同して取り組む研究活動を活性化 し、研究力を向上させることを目的にFD報告会を開催いたします。 今年度は、専任教員としてお迎えした春名苗先生（現代福祉学科 教授）、特別任用教員としてお迎えした中谷昇先生（社会学科教授） と山口浩次先生（現代福祉学科教授）にご報告いただきます。	○	47
	2023年7月26日 15:15~15:30	オンライン開催 (Teams)	本学教職員	2022年度研究員による研究活動報告について	高岡 智子（社会学科准教授）	「龍谷大学における研究に関するFD」の定義において、具体例とし て「教員集団・教員個人が日常的に行う研究活動の活性化・研究 力の向上のための活動」があげられています。社会学部では、研究 員規程に基づく研究員として研究活動を行った先生方から研究内容 の報告をいただくことで、学部内の教員が個々でおこなう研究活動 を活性化し、研究力を向上させることを目的にFD報告会を開催いた します。今回は「文化衝突がつくるポピュラー音楽-冷戦期以降の ドイツ文化に関する音楽社会学研究-」をテーマにボツダム・ライ プニッツ現代史研究所（ドイツ）にて研究された高岡先生にご報告 いただきます。	○	46
	-	オンライン	本学教職員（非常勤 を含む）	研究活動報告	社会学部教員		○	-
農学部	2023年10月25日	オンライン開催 (Teams)	本学教職員	農学部5期生の学修状況/大学IR コンソーシアム 学生調査結果（2022年度入学生対象）/ アセスメントプランによる学修成果・教育成果検 証結果報告	山崎 正幸 教授（農学部教務主任/農学 部FD委員長）	1. 農学部5期生の学修状況について、学科別、入学区分などから、単 位の取得状況、GPAなどを検証する。 2. 大学IRコンソーシアム学生調査（2022年度入学生対象）の集計 結果に基づき、農学部各学科、 本学各学部、大学IRコンソーシアム参画大学のデータの分析をお こない、教職員による意見交換を 通して農学部の教育改善に向けた検討をおこなう。 3. アセスメントプランによる学修成果・教育成果検証結果報告を行 う。	○	48
農学部 農学研究科	2023年6月14日	対面 9号館2F大会議室	本学教職員	2023年度農学部・農学研究科における進路実績報 告	キャリアセンター 藤崎 智史 氏	農学部四期生及び農学研究科三期生の就職状況の結果分析や学科毎 の進路種類の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4年次生の進路希望調査の結果についても学 部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とす る。	○	43
	2023年9月27日	対面 9号館2F大会議室 (オンライン配信検 討)	本学教職員 農部生・農学研究科 生	龍谷食と農のサイエンスセミナー	三柴啓一郎（農学科教授） 鈴木太郎（農学部食品栄養学科講師）	タイトル：植物における小胞体ストレスセンサーIRE1の役割につ いて 報告者：三柴啓一郎（農学科教授） 内容：小胞体ストレスは小胞体内で異常なタンパク質が蓄積した状 態で、小胞体ストレス応答はこれを感じて緩和します。本研究紹 介では、小胞体ストレスセンサーであるIRE1の植物における役割に ついて、演者らがこれまでに取り組んできた研究を紹介いたします。 タイトル：テラーメイド栄養学の確立に向けた生活習慣と遺伝的 因子との関連について 報告者：鈴木太郎（食品栄養学科講師） 内容：生活習慣と疾病リスクとの関連は様々な疫学研究で示され、 また近年、遺伝子の一塩基多型（SNP）をヒトゲノム全体に対して 解析するゲノムワイド関連解析法（GWAS）による研究が進み、食習 慣などの生活習慣と遺伝的因子との関連について取り扱いたいと思 います。	○	47
短期大学部	2023年6月28日	オンライン	本学教職員	科学研究費補助金説明会	研究部	科学研究費補助金の概要および申請のポイント。 さらに、私学事業団学術研究振興資金について説明を受けた。	×	19
	2023年9月20日	対面	本学教職員	2022年度「大学生生活の意識に関する調査」	心理学部教員	大学生生活の意識に関する調査において、龍谷大学の学生を対象に入 学後の適応について研究されている小正先生に研究の進捗について 伺う。特に、大学生の中途退学に関する心理的要因などを明らかに するために、大学適応感尺度を用いて質問紙調査を実施し、その結 果、現段階では短期大学部は「大学帰属感」「学ぶ満足感」「教員 サポート感」をより感じられる対応をさらに展開すると、中途退学 予防効果をもたらすと考察されている。 この結果をもとに、個々の学生への教育支援を充実させより快適な 大学生生活環境を提供するためにはどのようなことが必要か、今後の 全般的な教育支援のあり方について短期大学部教員の中で検討す る。 ※学修支援・教育開発センター自己応募研究プロジェクト（小正プ ロジェクト）の中間報告会をかかねて実施	○	17
	2023年1月17日	-	本学教職員	福祉施設での地ビール販売の実施について（仮）	川崎昭博氏	教員による社会連携・社会貢献活動の充実・向上を目指した活動 の実践例として、地域における事業の起業、展開にあたっての取 り組みについて報告を受け、見識を深める。		-
文学研究科	①5月17日 15:20 ②6月28日 15:10 ③7月12日 15:00 ④9月13日 15:00	オンライン	文学研究科 拡大教務委員 会構成員	文学研究科修士課程のカリキュラムの確認につ いて	講師：なし (各専攻から選出された拡大教務委員 会構成員、及びワーキングメンバー) ※研究科内各専攻への意見聴取に基づ くカリキュラムや入試制度の点検・改 革	現行カリキュラムの点検を行い、併せて「教育理念・目的」「学位 授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」との整合の確認を行 う。 また、各種アンケート結果を必要に応じて活用し、議論を深める。 ●前年度に検討した「文学研究科内共通科目の充実」について、そ の具体化のために必要な議論を行っている。 ●上記に併せ、文学研究科教務委員会から提示された「文学研究科 の改革についての基本方針について」に基づいて、「恒常化した定 員未充足への対応」及び「文学研究科カリキュラムの検討」につ いて、それぞれの具体的方策を今年度から短期的課題・長期的課題に 分けて検討する。 拡大教務委員会の下に作業部会（ワーキンググループ）を設置し、 議論を深める。	×	12
	-	オンライン	文学部教職員	他専攻教員の研究内容の紹介および学生指導の取 り組みの報告について	-	文学研究科には9つの専攻がある。そこで、他専攻の教員はどのよ うな研究をしているのか、また学生指導でどのような工夫がなされ ているのかを、文学研究科内で共有する機会を設ける。これによ り、学生指導や学生募集等に資する取組みとする。	×	-
	-	オンライン	文学部教職員	キャリアパスの可視化に向けた検討について	-	他大学大学院も含め、特に人文系分野の大学院の就職状況や傾向を 把握したうえで、社会に求められるスキルを検討する。	○	-
	1月	オンライン	文学部教職員	心理学研究科の概要の情報共有について	臨床心理学部教員	新たに設置される心理学研究科は文学研究科臨床心理学専攻を発展 的に改組転換するものである。心理学研究科が設置されて以降当面 の間は、文学研究科臨床心理学専攻と併設されることになる。文学 研究科内で心理学研究科のカリキュラム等について理解を深める。	×	-

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加人数
実践真宗学研究科	2023年5月24日	南麓103教室	実践真宗学研究科教員	京都府の自殺対策の理念と実際	鍋島直樹	京都府地域福祉推進課は自殺対策に熱心に取り組まれ、自殺予防の啓発や総合相談会などを開催し、人々の悩みに弁護士や臨床宗教師を含めた多職種で連携してきた。京都府に学び、宗教者からの自殺予防や自死遺族ケアを見つめ直したい。一人ひとりの価値観、寄り添う宗教的情操を尊重し、認め合っ心豊かに生きられる社会を考えたい。	×	11
	2023年12月13日 11:40~12:40	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	仏教チャプレンが関わった事例から多職種連携について考える	岩井 未来 教授 (実践真宗学研究科)	実践真宗学研究科では「臨床宗教師・臨床傾聴士研修」課程を設置するなど、宗教者として全存在をかけた人々の苦悩や悲嘆に向き合い、そこから感じ取られるケア対象者の宗教性を尊重し、病院、社会福祉施設、地域社会、被災地などの公共空間で実践可能な「スピリチュアルケア」と「宗教的ケア」の理論と臨床実習を教育・研究している。そうした中で現在課題となっているのが、多職種との協働と という問題である。今回の報告会は、看護師並びにチャプレンとして臨床経験をもつ岩井教授から、経験に裏付けられた事例を紹介いただき、今後の課程関連科目のさらなる充実を探ることを目的とする。	○	15
経済学研究科	2024年2月9日 15:00~	オンライン開催 (Teams)	本学教職員	修士課程英語プログラム【English-based Degree Program】の展開と課題	大原 盛樹教授 (経済学部)	英語で経済学修士号が取得できるEnglish-based Degree Program (EBDP) が経済学研究科で発足して2年半が経とうとしている。アフリカから2名のJICA研修生を受け入れ、今年4月にはキューバから文科省国費留学生1名が入学する予定である。グローバルサウス諸国を中心に入学希望の問い合わせは多い。英語のみで学位を与える専門プログラムとして本学で整備された最初期の仕組みの一つであるが、実施を通じて顕著になった課題は数多い。経済学研究科の特質に起因する問題もあれば、英語学生については専ら交換留学生の受け入れを想定してきた本学の海外留学生受入体制の足りない部分も見えてきた。本報告ではEBDPの最初の2年間の成果と見えてきた諸課題について紹介し、原因と改善策を探る。	○	40
経営学研究科	2024年3月下旬	オンライン開催	経営学部教員	早期履修制度を活用した大学院新コースのあり方について	経営学部教員	2022年度の経営学研究科FDIにおいて、「早期履修制度を活用した大学院新コースのあり方について」検討を開始した。これは、新たに「学部教育との有機的結合を通じた学部学生の教育充実化」をコンセプトとして、早期履修制度を活用し、学部の3年間と院の2年間の計5年間で「競争力人材」を育成しようという新コースである。その具体的実施案について引き続き検討する。	×	-
法学研究科	-	-	法学部教員	修了生カリキュラムアンケートについて (仮)	-	-	×	-
	2023年4月2日 14:15~15:15	和顔館B110教室	法学研究科教員 大学院生	新入生向けの大学院研究活動ガイドの実施<全体ガイダンス>	法学研究科教務主任	修論までのスケジュールをイメージさせた上で、円滑に研究活動に入れるようにする。詳細は以下のとおり ・大学院生としての心構え。学部との相違。 ・修論提出までのスケジュールのイメージ ・特にM1前期のうちにやっておくべきこと。 ・日頃の勉強方法 ・習得すべき外国語。「外国文献研究」履修の推奨。 ・修了生による体験談など	×	6
	5月中旬から7月下旬	分野ごとに異なる	法学研究科教員 大学院生	新入生向けの大学院研究活動ガイドの開催<分野別ガイダンス>	院生が専攻する科目の教員	修論執筆までの技法を学ぶ。詳細は以下のとおり ・研究テーマの見つけ方 ・日頃の勉強を論文執筆に繋げていく方法 ・習得すべき外国語・習得方法。 ・基本文献 (先行研究) ・資料の紹介 ・リサーチ方法 ・論文の書き方 (構成の立て方、論理展開方法、註のつけ方など) ・「評価される論文」とは? 過去の優秀な修論の見本提示 ・論証についての方法論 ・著作権への配慮など	×	8
	2023年6月6日 16:00~17:00	紫英館5階会議室	法学研究科教員 大学院生	法学研究科教員と院生との意見交換会	研究科長 研究科教務主任 教務課長	大学院生の要望等に対する意見交換を行う。	×	7
	6月上旬~7月下旬	分野ごとに異なる	法学研究科教員 大学院生	修士論文・課題研究の中間発表会の実施	法学研究科教員	修士論文・課題研究の中間発表会として、刑事法、民法、税法、社会法のグループもしくは個別で担当教員に発表を行う。	×	20
	10月上旬~11月下旬	-	法学研究科教員	2022年度修了生に対するカリキュラムアンケート実施の結果について	-	2022年度修了生に対するカリキュラムアンケートの内容を集計・分析した結果について情報共有を行う	×	-
	2024年3月18日	-	法学研究科教員 大学院生	修了生に対するカリキュラムアンケート	-	-	×	-
政策学研究科	2023年6月21日 15:15~16:45	オンライン会議	政策学部教務課	「政策学研究」の投稿規定等の見直しについて	教務主任	・博士学位審査における「政策学論集」等の掲載内容に関する確認について ・「政策学研究」の投稿規定内容の確認 (見直し) について	×	17
	2023年6月28日 14:15~15:00	和顔館4階会議室3	政策学部教員	教員活動自己点検について	教務主任	教員自己点検に係る確認	×	18
	2023年7月19日 15:15~16:45	オンライン会議	政策学部教員	今後の大学院の充実策について	教務主任	大学院充実策についての現状と今後の取り組みについて	×	18
	2023年12月20日 15:15~16:45	オンライン会議	政策学部教員	ハラスメントについて	教務主任	-	×	-
	2024年3月16日 14:30~15:00	和顔館4階会議室3	政策学部教員	2023年度 成績評価の適切性について	教務主任	自己点検・評価での改善項目について (学部との合同開催)	×	-
国際学研究科	2023年11月1日 12:40~13:30	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	サビエンス史の不穏な現在—自然主義的人間観の変容と課題	鈴木 滋 (教授・国際化学専攻)	サビエンス史とは、数十万年前にアフリカで出現した新人が、旧大陸で旧人との交雑を経て、ヨーロッパ・アジアに広がり、南北アメリカに至る世界に分布を広げた歴史を指す。近年の急速なDNA研究の進展は人類進化の基本イメージを一新し、新人は、ネアンデルタールなどの旧人と交雑をしつつ置換したこと、また、世界中に分布を広げた狩猟採集民は、後発の農耕民に置換されていたことを明らかにしている。さらに、現代人は、自家畜化によって、行動や社会の寛容性を高めたとする仮説が有力視されつつある。一方、これらの人類学による自然主義的人間観の変容は、深刻な差別につながりうることを指摘する。	○	23
	2023年11月8日 12:40~13:30	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	Left behind places: nativism, populism, and the geography of discontent	Jonas Suchanek (Charles University, Research Fellow / 国際学部客員研究員)	Since the refugee 'crisis' of 2015 and 2016, many European countries have witnessed an unprecedented surge in nativist and populist attitudes. As a result, numerous anti-immigrant parties and movements have come to power, while nativism and populism have become increasingly mainstreamed into political and media discourses. However, there remains a significant gap in the literature, primarily focusing on Western European countries and utilizing global regression models with limited explanatory value - in cases where aggregate data such as electoral outcomes are analyzed. To address these gaps, my research employs a geographical perspective to explore the dynamics of nativism, populism, and electoral discontent in the Central and Eastern European region, specifically in Czechia and Slovakia. This approach allows for the application of a theoretical framework centered on 'left behind places' and benefits from the use of spatial regression methods. In my presentation, I will first discuss the nuances of nativism and populism across different European countries in the light of the 'left behind places' conceptual framework and then share concrete findings of my research conducted for my dissertation.	○	11

主催	日時	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	全学 公開	参加人数
	12月6日 12:40~13:30	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	Motivations to study abroad in East Asia among Central European students	デブナール ミロシュ (国際学部)	本発表では、2022年度に中央ヨーロッパ三か国(オーストリア、チェコ、スロバキア)で実施した東アジア専攻(日本、中国、ロシア)の大学生調査の結果について報告を行う(共同研究者: Wolfram Manzenreiter、ウィーン大学)。 本調査では、主に留学動機について692名のアンケート調査及び8グループ27名のフォーカス・グループ・インタビューを3か国4大学において実施した。 留学の動機は経済的な観点から説明されることが多いが、本報告ではこのような観点を祖上に載せ、留学動機が多様性または社会的に構築される留学動機の性質を強調する。 なお、本報告は日本語で実施するが、英語の資料を使用する。	○	20
	2023年12月20日 12:40~13:30	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	ジャンル・アプローチを取り入れた英語ライティング研究を振り返る(システムテックレビュー): North American New Rhetoric Studies (NR), English for Specific Purposes (ESP), and Systemic Functional Linguistics (SFL)	長尾 明子 (国際学部 グローバルスタディーズ学科)	本研究の報告者は、日本人大学生を対象に、ジャンルアプローチを導入した英語ライティング授業を展開している。ジャンルアプローチを導入した英語ライティングには、3つの核となるフレームワークが存在する: North American New Rhetoric Studies (NR), English for Specific Purposes (ESP), and Systemic Functional Linguistics (SFL)。本研究では、systematic review を用いて、これまでの NR, ESP, SFLに関する英語ライティング研究にどのような傾向があるかを明らかにした。2006年から2023年にかけて出版されたジャンルライティング研究に関する430の研究論文及び博士論文が分析対象となった。その結果、NRを中心としたジャンル研究は理論拡張のための研究が多く、ESPによるジャンル研究の傾向はコーパスを利用したアカデミックテキスト分析に関する研究が多く、SFLによるジャンル研究は多様な研究対象者・データセット・データコーディング方法が見られた。	○	19
	2024年1月17日 12:40~13:30	オンライン開催 (Zoom)	本学教職員	超芸術トマソンにおける「他力思想」及び「日本的」美意識について	カルドネル シルヴァン 国際文化学科 教授	研究テーマは、赤瀬川原平(1937-2014)が提唱した「超芸術トマソン」における「他力思想」および「日本的」美意識に焦点を当てたものです。具体的には、超芸術トマソンの概念の確立とその芸術の哲学史上の位置づけ、トマソンの理論的評価と美学的評価、さらにはトマソンが持つ宗教的側面にも注目しました。	○	22
理工学研究科	-	-	理工学研究科教員	命令や強制は逆効果 好奇心を尊重する少年野球日本一監督の子供の動かし方	辻正人監督 (多賀少年野球クラブ)	指導方法を通じて、学生指導の方法を考える	○	-
	-	-	理工学研究科教員	交換協定(派遣留学)の課題について	木村睦先生 (博士後期課程国際化推進プロジェクト代表/電子情報通信課程・教授)	交換協定(派遣留学)の課題について	○	-
	-	-	理工学研究科教員	ダブルディグリーについて	外部講師	ダブルディグリーの利点と課題について	○	-
	-	-	理工学研究科教員	大学における社会人教育の在り方	放送大学	大学における社会人教育の在り方	○	-
社会学研究科	2023年10月25日 15:15~16:15	瀬田学舎6号館プレゼンテーション室	本学教職員	「大学院修了後のキャリアモデルの提示とキャリアパスの可視化 ~留学生への就職支援を踏まえて~」	大隅 要 氏 株式会社ロジックアンドサプライズ 代表	2023年度社会学研究科(修士課程・博士後期課程)における教学展開上の重点政策としている「大学院修了後のキャリアモデルの提示とキャリアパスの可視化」について、キャリア支援の専門家を招いて講演会を開催する。社会学研究科に留学生が多く在籍する状況を踏まえて、修士課程・博士後期課程を終えた留学生のキャリア支援についてもフォーカスした内容とする。	○	11
農学研究科	2023年12月13日 15:15~16:15	瀬田キャンパス9号館2階大会議室	本学教職員	大学教育(学部・研究科)における生成系AIの活用について	南條 浩輝先生 (滋賀大学データサイエンス学部 教授)	生成系AIをいかに学部及び研究科の教育に使うのか、学生に生成系AIをうまく使わせるには、といった、教育現場における積極的な活用方法やリスクなどをお話いただきます。	○	41
教養教育センター	-	-	-	教養教育科目における必修外国語「日本語」科目の改善に向けて	-	-	-	-
	2023年10月13日 17:00~18:15	深草学舎22号館303教室 Zoom	本学教職員	実践報告: 生成系AIに探りを入れてみる	田口律男氏 (経済学部教授)	教養教育・人文科学系の授業において生成系AIをどのように活用することができるのか、その実践報告に基づき、皆様と意見交換できれば幸いです。	○	10
	2024年2月21日	対面 オンライン併用	本学教職員	「人文科学系教養教育における生成系AIの活用法の検討」第2回研究会	教育学部(教養教育センター事務部) 恩田 清範	本FDプロジェクトでは下記の通り研究会を開催致します。教養教育・人文科学系の授業において生成系AIをどのように活用することができるのか、その実践報告に基づき、皆様と意見交換できれば幸いです。多数のご参加をお待ちしております。	○	7
グローバル教育推進センター	2024年2月27日	深草キャンパス 和顔館マルチリンガルスタジオ	本学教職員	第7回 龍谷大学JEP Kyoto&留学生別科 実践報告会	恩田 清範 (教育学部/教養教育センター事務部)	JEP Kyoto(Japanese Experience Program in Kyoto)及び留学生別科新プログラムのスタートと共に始まった本報告会も、7回目を迎えました。 新型コロナウイルス感染症の流行により対面での開催ができずにおりましたが、久しぶりの対面開催となります。今回は、早稲田大学の久保田美子先生をお招きしてご講演いただきます。 この機会に、お互いに培ってきた知見を共有し、建設的な意見交換を通じて両プログラムの更なる発展につなげたいと思います。	○	19
障がい学生支援室	2023年7月19日	龍谷大学深草キャンパス 21号館302教室	本学学生・教職員 一般の方も参加可	フォントが変われば 授業・大学が変わる! ~明日から使えるUDフォントの活用方法~	高田 裕美 (株式会社 モリサワ)	書体により文字の「読みやすさ」が大きく変わり、学習や生活に不自由を強いられている人々がいる。「誰一人取り残さない書体」とは? 「文字のユニバーサルデザイン」に奮闘し、「UDデジタル教科書体」を開発した今話題の書体デザイナー高田裕美さんのお話から、授業や大学のユニバーサルデザインを考えます。	○	100